



# ENGINEER® の MPDP ダイアリー



## [Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

高崎 充弘

## 第32回 ついに皿ネジが！なんと六角も！ ～「ネジ・バズーカ」誕生秘話 ①～

前号では「MPDP夜明け前」と題し、売れない商品を一生懸命開発していた苦悩の二十数年間のお話をしましたが、今回は、本年10月に発売したばかりの超ホットな新製品「ネジ・バズーカ」を紹介したいと思います。

ネジザウルスの場合、ネジの頭が1mmでも出ていればガッチリ掴んで回せますが、「皿ネジ」と呼ばれる表面から頭が全く出ていないネジや、奥まったところにあるネジには、喰いつきたくても喰いつくことができません。このネジザウルスの最大の弱点をカバーするツールが、以下に示す「ネジ・バズーカ」なのです。



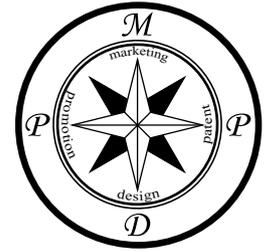
プラスネジの損傷程度に応じて1stと2ndビットを使い分けます。Hexビットは、頭が出ていない場所でもよく使用される六角穴付きネジを外すことができます。

さて、開発会議の議事録をひも解くと、最初に「ネジ・バズーカ」の記録が出てくるのは2004年9月でした。

当時はまだ「MPDP夜明け前」ですから、「数撃ちや当たる！」とばかりに幾つもの開発テーマを同時進行させていました。しかし、それらのほとんどは製品化してもヒット商品にはならず失敗の連続でした。その中で唯一、「ネジ・バズーカ」は細く長く研究開発を続け、アイデア発想から11年目、ようやく世に出すことができました。

なぜ、このような長期間にわたって開発を継続できたかを振り返ると、2つの大きな山場があったことに気がつきました。最初のピークは2005年、当社として初めてPCT出願を行ったのがこの「ネジ・バズーカ」です。国内出願をせず、いきなり国際出願を行いました。このようなことができたのは、その年に知財管理技能検定(3級・2級)に合格し、弁理士とのコミュニケーションがスムーズになったからでした。その後、ネジザウルスの2代目(2005年)、3代目(2006年)の製品化が先行し、「ネジ・バズーカ」の開発は一時スローダウンします。

そして2009年、4代目「ネジザウルスGT」の大ヒットによってMPDP理論が誕生。その直後から本格的な研究開発を再開し、2010～2012年に複数の出願(特許、意匠、商標)を行いました。「ネジ・バズーカ」のMPDPの実践プロセスにおいて、P(パテント)がこの時期にピークを迎えたのです。



ウ：皿ネジ用の「ネジ・バズーカ」、ついに完成でんな！  
銀：会社もこの間、いろいろありましたな～。社長はんが2代目に就任しはったし、ワシが開発のお手伝いをさせてもらたんもこのころからですわ。  
高：お客さまには長い間待っていただいて、本当に感謝している。特に2012年、「ガイアの夜明け」の放映以降は「皿ネジ」への期待がゲンと高まったね。  
ウ：ネジザウルスの海外展開の紹介がメインやったけど、番組の最後にボカシが入った「ネジ・バズーカ」がチラッと映りましたからな（^^ゞ  
高：それから苦節3年。MPDPのステップを着実に踏みながら開発を進めてきた。結果として、お客さまに愛される製品が完成したと思っているよ。  
ウ：2004年ゆうたらボクはまだ産まれてへんけど、そもそも、「バズーカ」の発想の原点って何ですのん？  
高：初代ネジザウルスを発売して数年経過したころだから、「皿ネジ」に対するお客さまのニーズが少しずつ見え始めてきていたんだ。  
銀：そっ、そうでしたん！ その時、ワ、ワシが！  
ウ：急に、ナニ興奮してんねん！？（-.-）  
銀：何度も皿ネジ舐めたことがあって、ちょっと温めてたアイデアがおましてん。  
高：そうそう、ヤル気のある人に仕事を任せるのが当社の方針なので、銀次郎くんが開発を担当することになり、「皿ネジザウルス」というコード名を付けたね。  
銀：自分のアイデアが製品化されるかもしれんちゅうことで、メッチャうれしかったですわ～（^o^）  
ウ：ほんで、どうやったん？ 皿ネジ、外せたん？  
銀：いや……それが、なかなか思うようには……（;\_;）  
ウ：なんやねん、ほんなら意味ないやん！  
高：しかし、銀次郎くんのアイデアが出発点になったのは事実。MPDP2.0のプロダクト・アウトとマーケット・インの融合（2015年6月号参照）の一例だね。

ウ：「皿ネジザウルス」はその後どうなりましたん？  
高：銀次郎くんの原案に改良と試作を繰り返しながら、「ザウルスドライバー」や「Dr.Saurus」など、コード名も変化していった。  
ウ：2010年に「バズーカ／Bazooka」で商標登録され、商品名も決まりましたな。  
銀：そういえば、この前、営業マンが言うてましたで！『「ネジ・バズーカ」ってネジザウルスの兄弟？』ゆうて、お客さまからよう聞かれるらしいわ（^o^）  
ウ：ある意味うれしいわな。ほんで、なんて答えてるん？  
銀：兄弟とはちゃうし、異母兄弟……ちゅうのもちょっとアレやし、お客さまには「従兄弟<sup>いとこ</sup>」ゆうとるらしいで（^^ゞ  
ウ：ところで、「バズーカ」ちゅう名前の由来は？ 恐竜のネジザウルスとはちょっと毛色が違いまんな。  
高：2009～2010年にかけて、銀次郎くんとビットの形状や硬度を変えながら、テストを繰り返していた時期があったんだ。  
銀：毎日何百個ものネジにビットを撃ち込んで、機能と耐久性を検証してましてん。  
ウ：事務所の一角やからハンマーの音が大きゅうて、社員にかなりヒンシュクこうてましたで（^^ゞ  
高：そんなある日、ふと思いついて一つの特種ビットをテストしてみたんだ。すると、ネジの頭にグサッと喰い込み、ビットがピタッと直立したんだ！  
銀：覚えてまっせ～。社長はんも大興奮しはって、「この日を忘れんとうよう！」ゆうてはりましたな。  
ウ：ネジの頭にビットが喰い込むちゅうことは、そのまま回したらネジが外せるちゅうことでんな！  
高：開発の方向性が間違っていなかったことを確信できた感動の瞬間だった。同時にネーミングもひらめいた！（\*^^\*）  
銀：ネジの頭に喰い込む、「ネジ・バズーカ」の誕生っ！